

平成30年夏の平和展「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」
 展示資料 ※合計 39点

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷 和生
 平成30年7月5日版

① 立体展示

「日本海軍飛行兵 軍装資料」 11点

～昭和20年6月球磨郡錦町で米軍機を迎え撃った柴田
 上等飛行兵曹の当時軍装を再現します～

資料番号	名称・規格・素材	概要・特徴
[松山資料] M-1	「海軍飛行服夏衣」 (× :衣類)	太平洋戦争末期の海軍飛行服である。右腕肩部に旭日旗、左側に飛行兵科の下士官階級章「上等飛行兵曹」を附している。素材は綿製である。 
[松山資料] M-2	「海軍飛行服夏袴」 (× :衣類)	太平洋戦争末期のセパレート型海軍飛行服である。腰締めはベルト（バックル）とし、裾はボタン留めで、素材は綿製に絹を混ぜ、不燃性を高めている。 
[松山資料] M-3	海軍救命胴衣（ライフジャケット） 「カポック繊維入り後期型」昭和19年、横須賀軍需部製 (× :衣類)	海上の作戦が基本の海軍航空隊では必需品である。チョッキ型に棒状浮遊体カポックをギャバジン地につめ、浮力を得た。背面には識別日の丸を画く。 
[松山資料] M-4	「操縦者用落下傘 九七式縛帯：ばくたい」 (× :衣類)	操縦席の座席下にクッションを兼ねて装備された落下傘を装着するための海軍型の装備品・パラシュートハーネスである。離脱器・金具は日本独自の形式。 
[松山資料] M-5	「飛行靴」 末期型 飛行略靴 (× :衣類)	多様な飛行靴の中で、大戦末期物資不足で制定された略靴である。上はキャンパス地で、褐色に染めたものである。錦町墜落機の柴田上飛曹は青地に染めていたと想定している。 

<p>[松山資料] M-6</p>	<p>「飛行帽 冬用」 (× :衣類)</p> <p>※人形頭被せ</p>	<p>前期型の冬用飛行帽で、内側が毛皮となっている。正面には味方識別の「日の丸」を画いている。</p>	
<p>[松山資料] M-7</p>	<p>「飛行眼鏡」 日満工業マーク入り (× :衣類)</p> <p>※人形頭装着</p>	<p>海軍飛行眼鏡の開発から携わった日満工業製の「鷹の目眼鏡」である。ガラスは複層となり、間には飛散防止剤が挟み込まれている。</p>	
<p>[松山資料] M-8 M-9 M-10</p>	<p>「飛行襟巻き」3点 (× :布製)</p> 	<p>絹製の海軍航空隊の象徴となる白色マフラーである。防寒、防塵、風除け、いざという時の火炎よけ、血止め、包帯、信号等の多様な役目がある。</p>	
<p>[松山資料] M-11</p>	<p>「飛行手袋 夏用」 (× :衣類)</p>	<p>薄手の夏用飛行手袋で、指先部と袖部は材質が異なる。手の甲側で絞り込むつくりとなっている。</p>	

② ガラスケース内展示 「空襲資料 その1」 6点

～太平洋戦争終盤期の空襲に関わる資料。




資料番号	名称・規格・素材	概要・特徴
[松山資料] M-12	「飛行時計 計器型」 裏面銘 空兵 き 一三一六三號 (× :金属)	コクピット内計器板から取り外し、使用しやすいように落下傘紐で首から下げられるにした飛行時計である。大戦後期は首下げスタイルが一般的となる。 
[松山資料] M-13	「乳児用 防空頭巾」 (× :衣類)	上質のネル地を利用した赤ん坊用の防空頭巾である。頭部には厚手裏地で補強し、両袖の箇所には、赤と緑色で扇子と思われる刺繍を施している。 
[松山資料] M-14	「M69焼夷弾」 (× :金属)	E-46集束焼夷弾に38発同胞・集束された断面六角形状で、尾部ストリーマー装備の焼夷弾である。日本家屋の瓦屋根を突き破り炎をあげて燃焼する。 
[松山資料] M-15	「消火弾」 (× :紙製 ・金属)	帝国防空協会推奨の佐竹製強力消火弾である。ガラス瓶内に消火薬剤を詰め込んだアンブル製品である。火炎に向け投弾して消火にあたる。 
[松山資料] M-16 M-17	「灯火管制用電球」 二種 (× :金属)	普通球は、東京芝浦電気株式会社製「マツダ」標記の甲程度警報管制用球である。小型球は、松下電気株式会社製のナショナル防空国民球である。ともに下側のみを照らす。 

③ パーテーション展示

「空襲資料 その2」 12点

～太平洋戦争終盤期の空襲に関わる資料。

資料番号	名称・規格・素材	概要・特徴
[松山資料] M-18	「紙製鉄かぶと」 (× :紙製)	物資不足時代の代用鉄かぶとで、紙を何層にも混ぜ、圧縮プレスし、成形されている。深草色に塗られ、竹製鉄かぶと等同様に銃後での装備品となる。 
[松山資料] M-19	「代用水筒」 (× :内部はガラスでベークライト保護)	小型の代用水筒で、材質はフェノール（石炭酸）等を主原料とする「ベークライト」を陶器に混ぜることで強度・耐熱性を持たせたものである。 
[松山資料] M-20	「非常用持ち出し袋」 (× :布製)	麻布製の大型の持ち出し袋である。巾着袋式に頭部は絞り込み、氏名等も記載し、下部には補助紐も付く。 
[松山資料] M-21 M-22	「防空用砂袋」二種 (× :紙製)	防空・防火用の丈夫な紙製の砂袋である。標語には「大東亜建設戦 備えあれば憂いなし」と、空襲への日常の備えを推奨している。 
[松山資料] M-23 M-24	「灯火管制用電灯傘」 (× :紙製)	家庭用電灯に被せる紙製灯火管制用の多様な傘類である。陸軍標準迷彩色二色を配色した傘は、警視庁警防課が適当と推奨し、減光条件・管制時間も附されている。 
[松山資料] M-25	「拡声器メガホン」 (× :紙製)	熊北十三分団警報班長使用のラッパ型筒のメガホンである。口宛て部は金属製だが、ラッパ部は丈夫な紙製である。 
[松山資料] M-26	「拍子木」 (× :木製)	夜回り等に使用する「警防」刻印のある檜材の拍子木である。 

<p>[松山資料] M-27</p>	<p>「国防バケツ」 (× :金属)</p>	<p>空襲に備え屋外の防火水槽等の横に重ねておくトタン製の国防バケツである。町内会での防空演習等でのバケツリレーで消火訓練に励んだ。</p>	
<p>[松山資料] M-28</p>	<p>「家庭防空の心得」 (× :紙製)</p>	<p>岡山県が発行した心得紙で日常目につく所に貼る様に指示されている。警報・灯火管制・防火・防毒の各項で詳細な説明がなされている。</p>	
<p>[松山資料] M-29</p>	<p>「空襲への家庭の心得」 (× :紙製)</p>	<p>岐阜県が発行した空襲用の心得紙である。「空襲は必至・防空へ邁進」せよと、空襲への備えや空襲警報時の対処等、きめ細かく心得等説諭している。</p>	



「展示用人形型・頭部型」



